

【事例紹介】

# フィリピン短期英語留学市場の今後

## －国際共通語としてのフィリピン英語－

### Studying English in the Philippines Market Trends

フィリピン観光省アシスタントディレクター 横山 泰彦

YOKOYAMA Yasuhiko

(Assistant Director, Philippine Department of Tourism, Tokyo Office)

キーワード：フィリピン、英語留学、ASEAN、短期留学、オンライン英会話、英語教育、海外留学

#### 1. はじめに

フィリピン英語留学は、1990年代中頃より韓国人が始めたビジネスモデルです。大学への進学、就職に英語が必須の韓国で、どのように英語を短期に、しかも安価で身につけることができるかで着目した先がフィリピンでした。

日本からは2000年代初頭より、大学生などがネットで海外英語留学先を調べ、フィリピンに短期留学を始めました。その後はリピーターとなり、口コミで徐々に広がり始めました。フィリピン観光業界でも話題には上がりましたが、フィリピン英語留学が今日のように海外留学の一角を占めるようになるには多くの関係者も懐疑的でした。それでも弊省にも問い合わせが増え、フィリピン専門の留学エージェントが出来始めたので、将来も継続可能で健全なマーケット発展を目指す目的で、2010年1月には英語学校、留学エージェントと共にフィリピン留学普及協会(PSAA)が東京で設立されました。

テレビ、雑誌、新聞などのメディアが、多くの韓国人の留学生がフィリピンで英語を学んでいる現状と共に、日本人留学生のインタビューなども含めてフィリピンでの短期英語留学を特集として取り上げていただきました。このように注目を浴び始めたのが2010年で、日本におけるフィリピン短期英語留学元年と言っても過言ではないでしょう。

#### 2. 経済成長を続けるフィリピン

フィリピンは7,641もの島々からなる群島国家で、島の数だけ伝統や文化など多彩な魅力に溢

れる国で、面積は日本の北海道を抜いた大きさです。人口は1億419万人（2016年）で、出生率は2.7（日本は1.4）、毎年人口が2%増加しており、2、3年以内には日本の人口も超えてしまうとされています。特に若い世代が人口の大半を占め、中央年齢は23歳（日本は46歳、中国は37歳）で、生産年齢人口が他の国と比較して大きいため、経済成長が後押しされる人口ボーナスが2062年まで長く享受できます。

実際2010年のアキノ大統領から2016年のドゥテルテ大統領就任後も、フィリピンの経済成長は6%から7%の高水準で推移しています。これは政治の安定、政府の効率性、腐敗撲滅が進み、海外からの投資のみならず国内企業の投資が増加したことによるものと推測されます。フィリピンでは、国内での就業先不足と高い英語能力、真面目でフレンドリーな国民性もあり人口の1割が海外就労者で、出稼ぎ国家とも言われています。彼らの国外からの送金額は年間3兆円を超えており、GDPの7割が個人消費のフィリピンで経済を根底から支えています。職種としては看護師、介護福祉士、船員、IT、サービス業など様々で、米国、カナダ、ヨーロッパ、中東、アジア、日本などで働いています。

しかし昨今フィリピン国内でのオフショア・BPO市場が、これを凌ぐ経済規模として成長しつつあります。英語を使えるグローバルな競争力を持つ若い人材が豊富であることから、新たな戦略拠点として注目されています。コールセンターは既に世界最大規模となり、その他の金融・会計、IT業務、医療情報管理、クリエイティブ系、エンジニアリングなど様々な企業が進出しています。

また、昨年フィリピンへの日本人渡航者数は対前年比8.15%増の631,801人、フィリピン人の訪日数は504,000人で対前年比18.8%増でした。日本では27万人のフィリピン人が住んでいて、在留外国人数では中国、韓国、ベトナムに次いで4番目の大きなコミュニティーを築いています。双方の行き来が活発に増加していますので、航空会社による新規就航、増便、機材の大型化などもあり、年間の航空座席供給数も200万席を超え、更なる価格競争力、サービスの向上が見られ始めました。

### 3. 国際共通語としてのフィリピン英語

1521年にマゼラン一行が上陸して以来スペインの統治が約350年あり、その時代の文化、伝統は、言語をはじめ今もなお国民の日常生活に根強く残っています。また、その後約50年間のアメリカ統治時代により近代教育制度、英語がもたらされました。群島国家フィリピンには111の言語、文化、民族グループがあり、87の言語が話されていて、その中でマニラ周辺のタガログ語を基礎としたフィリピン語を国語として定めています。

英語は公用語で、小学生から教えられており全国的に通じる共通語でもあります。フィリピンでは、英語に関してはネイティブではなく、取得した言語として English as a Second Language (ESL)とも呼ばれる第2言語です。フィリピン人同士では、タガログと英語を混ぜたタグリッシュが良く使用されていますが、そのひとつに、センテンスの最後にデバと加えるだけで疑問文になる便利な言い回しもあります。

現在英語は75か国で公用語とされ20億人が使用していますが、これは世界人口の4分の1にあたります。ただ、シンガポールのシングリッシュ、オーストラリアのオージーイングリッシュ、ニュージーランドのキウイイングリッシュ、アメリカやイギリスでも地域、人種などにより独特な英語表現、発音をしています。日本でもジャパニーズイングリッシュと言われる日本語脳による表現、発音があるのは共通の悩みかも知れません。フィリピンでは、ネイティブが使うようなフレーズ、難しい言い回しは使わず誰とでも通じる国際共通語としての英語を主に使用しています。

#### 4. 観光省管轄の短期英語留学マーケット

フィリピンへの留学は短期英語留学、大学学部留学、大学院留学や大学間協定による交換留学などがあり、高等教育機関への留学も日本から年間100人弱いますが、この項では短期英語留学について説明させていただきます。

教育旅行は、持続可能な成長のエンジンとして可能性があり、国の威信、フィリピン人の信望を高めるとして短期英語留学を観光省が管轄しています。また、国家観光開発計画で英語留学は、将来性、長期間滞在で観光支出増を見込めるとして、重要な観光素材としても位置づけています。

高等教育機関への留学では留学ビザを取得するにあたり成績証明書など様々な手続きが必要となりますが、1年以内の短期語学留学であれば入国管理局から特別就学許可証 (SSP) を発給します。また、日本人は30日以内の滞在はビザ不要ですが、それ以上の滞在であれば延長申請を SSP 同様入国管理局に申請し、語学学校が代理申請します。

#### 5. フィリピンの英語学校

フィリピン国内に英語学校は北からバギオ、クラーク、マニラ、イロイロ、セブ、ダバオなどに約400校あります。その内日本人が使用しているのが約100校、日系の学校が約50校です。以前は韓国資本の学校が多くありましたが、日本での人気が高まるにつれ日本資本の学校も増えてきました。申し込みは留学エージェントを通してするのが一般的ですが、直接英語学校や旅行会社を通しての申し込みなどが出来ます。

大小様々な語学学校がありますが、選択する際に重要なのは以下の3点を満たしていることです。

- 1) 入国管理局から留学生受け入れの承認を得て、特別就学許可証（SSP）発給のため代理申請が可能なこと。



- 2) 講師の指導技術、設備、カリキュラムなどが水準レベルである認定証を、労働雇用省技術教育技能教育庁（TESDA）から取得していること。



- 3) 観光省に教育施設としての登録



## 6. フィリピンでの英語留学を推奨する理由

- 1) 日本から近い

日本からマニラまで約4時間、何時でも気軽に留学、研修旅行を計画できます。格安航空会社（LCC）もマニラ、セブに就航しています。

- 2) ワンオンワン方式の授業

他の国ではグループ授業が主流ですが、フィリピンの英語留学は1対1の対面授業とグループ授業を組み合わせているので、短期集中で英語が身につきます。

- 3) 費用が安い

物価が日本の約半分～3分の1です。

#### 4) 公用語が英語である

フィリピンは世界で5番目に英語を話す人口が多い国です。また、フィリピンでは英語は公用語で、学校、ビジネス、街中でも英語を使う環境が整っています。

#### 5) 優秀な教師陣

難関試験を突破して採用される教師陣は明るく陽気です。また、彼らにとっても英語は、必須・取得科目であるため、躓きやすいポイントを熟知していて、英語を母国語とする教師よりも教え方は、とても親切かつ上手です。

#### 6) 休日の楽しみが多い

白砂の美しいビーチリゾートで、ボートでの島めぐりやダイビングライセンスを3日間で取得できます。また、ゴルフ、スパマッサージ、ショッピング、トロピカルフルーツ、フィリピン料理など様々なことが格安で体験できます。

### 7. フィリピン英語留学の特徴

#### 1) スパルタ式はフィリピン英語留学の代名詞でもある。

スパルタ式では、平日は外出禁止、強制自習、母国語禁止ルールなどで徹底的に英語勉強に集中できる環境です。母国にいる親御さんが日々の成績などをインターネットなどで監視することも可能です。ワンオンワン（1対1）とグループレッスンでの学習を組み合わせ、学校によっては自習も含め12時間の学習時間が設けられています。主に韓国資本の学校にスパルタ式は多いです。もちろん、マイペースに授業、自由時間を過ごすことができる学校もあります。

#### 2) 学生寮併設のキャンパス型

敷地の中に教室、学生寮、プール、ジム、食堂、売店などがあり、キャンパスから外に出なくても生活が出来る環境を要していて、入り口には24時間体制のセキュリティガードがいますので、治安的にも安心です。学生寮は1人部屋から多人数同居のタイプまで様々です。食堂では毎日3食ビュッフェで提供されていて、部屋の清掃、週1、2回洗濯のサービスもあります。キャンパス以外にも別の場所の学生寮、外部のホテルから通うタイプの学校もあります。日本人学生を受け入れている語学学校の多くは日本人スタッフが常駐しているので、生活の相談などもできます。

### 3) 様々なカリキュラム

一般英語コース、ビジネスコースのほか、TOEIC、TOEFL、IELTSなどの資格試験対策コース、英語教師のためのTESOL、CELTA、またIT、医療機関、観光など特定のコースは各種あります。タクシードライバー、ホテルのフロントが使う英語など、ニーズに合わせ特化した英語を学ぶことができます。特に、ワンオンワン方式のため、発音矯正、文法、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング、ボキャブラリー、など必須4技能を含めてバランス良く学ぶこともでき、そのための教材などを用意してくれます。まずは学生本人がどのような英語を学びたいのかを伝えることが重要です。

### 4) 1週間からの短期留学

通常1週間から2、3か月までの滞在が多く、同じ学校で6か月以上滞在される学生はまれで、有給、夏休みなど長い休みを利用される方など様々です。

### 5) 国際色豊かで、幅広い年齢の学生層

日本、韓国のみではなく中国、台湾、中東、ロシア、ヨーロッパ、ベトナム、タイなど様々な国籍の方々が英語留学しています。また、親子留学、小学生などのサマーキャンプ、中学、高校の英語研修、大学生、社会人、企業研修、英語教師、リタイア後の趣味として学ぶ方など年齢も幅広く、様々な目的で留学されています。

## 8. 2020年教育制度改革

グローバル化の中、多様な文化や言語を持つ人達と接するにあたり、国際共通語の英語が重視されるようになります。小学校3、4年生から外国語活動が導入、5、6年生の英語正式教科化、中学、高校での英語授業は「英語で行うことを基本とする」と、しています。大学入学共通テストでは、使える英語を身につけるため、積極的に英語の技能を活用し、考えを表現できる力も含め、(書く、話す、読む、聞く)の4技能で評価、資格・検定試験の活用が勧められます。

この歴史的な教育制度改革で、フィリピン短期英語留学業界の役割、担えるところはあるのでしょうか？

## 9. フィリピン短期英語留学の今後

特に幼児期から小学校にかけては言語吸収力が高いとされているので、親子留学、サマーキャンプなどで、小学校低学年のお子様も英語に慣れ親しむ、楽しんで学ぶ目的で参加する方も増えてきています。中学、高校の夏休み英語研修先として、以前は欧米が主流でしたが、現在は100校以上でフィリピンも行先に含めていて、格安で英語が身につくと高い評価をいただいています。大学入学共通

テストに向けて資格試験対策コースを受講し、4技能評価を高めるニーズは今後も高まるでしょう。また、小学校からの外国語活動の授業が始まり、中学、高校では英語授業を英語で行いますので、教員の需要も高まるでしょう。実際、日本の英語教員が TESOL、CELTA のコース受講されているようです。教科書、音声教材、外国語指導助手 (ALT) の活用もありますが、多くの教員が不安に感じていると推測されます。社会人もキャリアアップのため、海外赴任が決まり急遽必要、社内での環境の変化による英語公用語化など多様です。企業研修もメーカー、銀行、商社、サービス業など様々な職種で、フィリピンでの研修を行うのは単純に英語を身につけるだけではないでしょう。ASEAN 10 各国が 2015 年に発足したアセアン経済共同体 (AEC) は、人、物、サービスの自由化を域内 6 億人で進めており、各国ともに高い経済成長しているので重要な商圏と捉えての戦略と考えても良いかと思います。

日本からの英語留学者数推移ですが、正確な統計の把握に苦慮しているのが正直なところです。2010 年には留学関係者からのヒアリングベースで数字を積み上げ約 4,000 名とし、その後右肩上がりに増加し続け、2015 年に 3 万 5 千人とまで公表しています。しかしながら、出入国管理局が発給する特別就学許可証 (SSP) をベースとし活用したいのですが、各支局の SSP に対する期間の扱いなども統一されていないので、まだしばらくお待ちいただく状況です。昨年フィリピンの英語学校を代表する組織として「English Philippines」が設立され、まだ、参加学校は少ないですが、官民協力し健全な英語留学市場の成長と留学者数などの正確な統計作成に関与していただければと願っています。

民間の留学事業者等で構成される一般社団法人海外留学協議会 (JAOS) による日本人留学生数調査 2018 では、アメリカ、オーストラリア、カナダに次いで 4 番目に留学生が多い国になりました。ちなみに前年度はイギリスに次いで 5 番目でしたのでランクアップしています。

## 10. 変化し発展続ける英語留学ビジネス/おわりに

オンライン英会話業界も多くの講師がフィリピン人で、1日30分で月額5,000円程度の格安な上、好きな時間に勉強できることもありお茶の間留学などと好調の様です。以前は早朝や帰宅後に自宅でスカイプを通じて学んでいましたが、学校内でオンラインブースを設けて自由に学べたり、授業として取り入れるなど勉強方法も進化しています。フィリピン講師との会話からフィリピンに興味を持ち、実際に海を渡り留学するなどの効果もありますので、フィリピン留学とオンライン英会話は親和性が高く、共にうまく利用してこそ学習効果も高まると思われます。また、2020年の教育制度改革もあり、既にフィリピンにおいて実践を積んでいる優秀な即戦力人材を、外国語指導助手 (ALT)、英会話学校での雇用も増えています。

フィリピンの英語学校では、実際に留学生を受け入れると共にオンライン英会話、英語講師の派遣とマルチにフィリピン人講師を活用しているところも出てきています。また、英語とカラダを同時に鍛えるボディメイクプランでは、専任のインストラクターがサポートしてくれるユニークな取り組みも行われています。

かつての留学の定義は一定ではなく、異端なフィリピン短期英語留学が参入して以来、2か国留学など業界は多様性も取り入れながら拡大基調にあるのではないのでしょうか。

#### 参考文献

フィリピン留学普及協会 <https://psaa.jp/>

English Philippines <https://english-philippines.org/>

海外留学協議会 (JAOS) <http://www.jaos.or.jp/>